



2



3



1

1 「la mia rossa」は、部屋に飾った赤い薔薇を夕日が照らし、室内を真っ赤に染めたことへの感動から生まれた。2 カラヴァッジョに捧ぐ「visione」の一枚。3 近年の「Monono aware」は、かつて愛された物が所有者の変化で存在理由を変えていく様、その物が見てきた時間を写真に収めようという意欲的なシリーズ。「時」は一貫して作品のテーマに。

写真家ニシカワヨシエの30年回顧展 「諸行無常／TUTTO SCORRE」1994 - 2016

「自身の活動を振り返るいい機会を与えてくださったと思っています。今までのすべてがあったから、ここにいるんだとあらためて感じています」

ミラノを拠点にする写真家ニシカワヨシエさん。国内外の広告などの商業写真で活躍する一方、自身のファインアート作品の制作にも精力的に取り組んできました。今回、シエナ県のサルテアーノ市が、城塞を使用した初の大アート展の栄えある第1回目に招いたのが、そのニシカワさんの回顧展。日伊交流150周年記念の年であることから、日本人アーティストが選ばれたのです。

広大な城に展示されるのは、東京時代の女性美とエロス、渡伊直後に「自分の時間でモノをゆっくり見られるようになった」ころに赤い薔薇の蕾から朽ちるまでを撮った「la mia rossa」、アナログからデジタルへの移行期の模索を刻んだ「表裏一体」、陰影礼賛を表現した「Peggy」、終焉を口にする母親の所有物を写すことで、時間背景を表現しようという作品「Monono aware」などのシリーズ、約30年間の芸術の探求。「ひたすら耽美を追った時代など、さまざまな時期を経て、今はフォルムのうしろにある、目に見えないものの撮りたいと思っています」

イタリアに愛された写真家の軌跡を、その地で堪能する写真展。タイトル「諸行無常」もまた、時の移ろいを愛する世界観の表れです。



PROFILE

にしかわ・よしえ ●1959年札幌生まれ。サンフランシスコ、ロンドンで写真を学び、'84年より東京で活躍。'96年ミラノに移り、ファインアートの制作を本格始動。2009年、'10年とイタリアプロフェッショナル写真家協会主催写真コンペで、総合グランプリなどを受賞。



EXHIBITION

会場はトスカーナ州シエナ県サルテアーノにある中世の城塞。全館4フロア15部屋を使い、部屋ごとに異なる作品シリーズの写真、計99点が展示。会期／10月30日まで。会場／サルテアーノ城 Via del Castello 53047 Sarteano <https://www.facebook.com/RoccaManentiArtSarteano/>